

大正九年八月

佛領印度支那鉅業概況

外務省

3-1709

0244

12/17
外務省

佛領印度支那鑛業概況

臺灣總督官房文書課

大正九年一月廿六日記錄第二部接受

郵受 632號

時事通報 第三十九號

(大正九年一月十二日)

大正九年壹月拾九日接受

駐通薦

第二課

3-1709

0245

○佛領印度支那ノ鑛業

(印度支那經濟雜誌及暹羅州報
十月号所載)

千九百〇五年以降佛領印度支那東京ニ於ケル鑛業ハ著シキ發達ヲ示セリ千九百〇五年以前ニ於テハ鑛業山ノ採掘セラル、モノナク、コロン、チエウ、カソン、等、如キ比較的著シキモノヲ除キ當テ土人ノ採掘セシ鑛層ノ所在位置、利便費加之、務州東京ノ情勢ハ三角州附近以外ニ於ケル鑛脈ノ踏査ヲ困難ナラシムルモアリテ、鑛山ノ真價未タ世ニ認めラレサキ、サレド千九百〇五年ニ至リ東京ニ於ケル鑛層ノ存在ト眞價ヲ察知セル各企業

家ハ相争ツテ技師ヲ派遣シ鑛脈ノ踏査ニ努メタル結果鑛業俄然トシテ興リ遂ニ今日ノ盛況ヲ見ルに至リ、今右ニ採鑛年順ニ右鑛山ヲ示セハ

- 千九百〇五年 トランダ
- 千九百〇六年 ランビット
- 千九百〇七年 サンモイ
- 千九百〇八年 チョーダイエン
- 千九百〇九年 ギエンリン
- 更ニ千九百〇六年ニ於ケル再鑛ノ産出額ヲ示セハ左表ノ如シ

産出	輸出	平均	従業員	備考
産出額 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	輸出額 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	平均率 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	従業員 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	備考 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

3-1709

0247

○佛銀即為支那鑛物產額五、〇〇〇噸中匪
 鐵鑛ハ四九、〇〇〇噸ヲ占ム
 歐洲戰亂勃發前所産鐵物ハ殆ト總テ歐
 州ニ輸出セラレ、倉有率ノ豐富ナルハ白耳義
 ニ其他ハ獨ビニ支々吸收セラレタリ戰事開始
 ト共ニ船腹ノ拂込運賃ノ昂騰等ノ諸原因
 ノ為ニ輸出不能トナルカ幸ヒ日本商人ノ
 求スル所トナリ今日殆ト日本人ノ独占吸收
 ノ有様ナリ戰亂終熄後依然今日ノ如ク運
 賃高率ナルニ於テ印度支那ノ鑛産物ハ
 日本人ニ独占セラルヘシ
 今左ニ各鑛山ニ就テ述フヘシ
 一トランダ鑛山

位置 紅河ノ一支流クレール河ノ左岸、フォート
 ギオバニ依リレ丘ニテ採掘上ハ河畔積込
 埠頭ヨリ數百メートルニテ埠頭ハ五十噸乃
 至百噸ノ河船横付スルコトヲ得
 概況 千九百五年ノ發見ニシテ千九百六年ヨリ
 一トランダ鑛業會社經營採掘

今日迄九万噸ヲ產出ス、垂直坑ニシテ
 八層坑深サ二十メートル
 千九百十六年迄是採鑛ノ今日新ヲモ產
 出ス
 採掘セル無極鑛ハ三ツ切缺シタル後深
 鑛爐ニ送ル採掘セル小鑛ハ洗滌式ニ
 依リ一日十時間約六十噸乃至七十噸ヲ

0249

3-1709

取扱ヒ二十四噸乃至三十噸ノ粗鉄ヲ得
名極鉄 粗鉄ハ炭鉄爐中ニテ燒煉シテ
炭鉄爐(五ヶ)ハ一日約十二噸ノ燒鉄ヲ
(三)ハ六噸ヲ燒鉄スル能力ヲ有ス
産出額 一月約十噸
従業員 普通通歐洲人十七人 甚カキ五百人
(二) ランビット嶺山
位置 シンカウ河ノ左岸サイ、カエンノ此方十七キロ
メートルノ地ニ在リ

概況 千九百五年ノ西採掘ニ係リ、東岸鉄
業ノ富社經營(資本金二百萬法)
南方より此方ニ向ヒランビット、モバ及バクラオ
ノ三坑アリ三坑共ニランビット河ニ連続シ、

軌道 空中索道等ニヨリ約十キロ米突ヲ運
搬シ、シンカウ河ニ係リ船板ニテ海陸ニ搬
出ス目下ハランビットヨリ、パンメレニ達スル
狭軌鉄道敷設計畫アリ、パンメレニテ
約百噸ノ河船ニ積載シ得ルニ至ルヘシ
従業員 歐洲人十五人 安南人一二〇〇
産出額 千九百七年より千九百十一年ニ至ル
間ニ於テ九八〇〇噸内三分ニ無極鉄
残余ハ方再製鉄

(二) 千ヨダイエン嶺山
位置 バン湖此方十八キロメートル、ナドンノ東二十
キロメートル、チ岳ホアノ上流十二キロメートル、ソン
ガム河ニ沿ヒ十噸乃至十五噸ノ船板ヲ通シテ

ユエン、クワンニテ五十噸乃至百噸ノ河船ニ積換ス

概況 南ヲ北ニ向ヒ「ラポアン」、「ナムハン」、「ヒヤ

カオ」及「パオペン」ノ四坑アリ
産出額 千九百十三年 二千噸 合十五年

八千五百噸 千九百十六年 一万二千噸

(四) サンモイ 鑛山

河内ヨリランソンニ至ル 鉄道線路ニ沿フ一停
車場ニシテ「ガフカウ」ヨリ七十八キロメートル
ノ地ヲアリ、採鑛ハ汽車ニテ「ガフカウ」ニ送リ此
處ニテ百噸ノ河船ニテ海防ニ搬送ス、サレホ
イ鑛業會社(資本金百萬元)ノ経営ハ
採掘開始後今日ニ至ルマデ一万噸ヲ産出ス

五

(五) イエンリン 鑛山

イエンリン 鑛業會社(資本金七十萬元)ノ
経営ニシテ「クレー」河ノ左岸、トランド 鑛山
ニ連ル「ム」、「ホアン」ニミレ及「ヒアカ」ノ三坑アリ

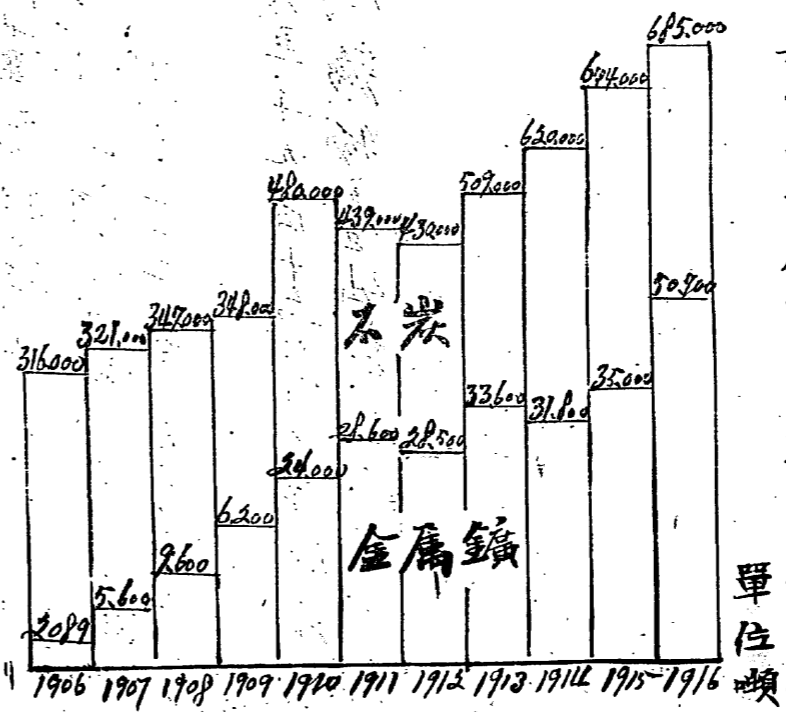
千九百十六年乃至千九百十七年ノ年別産
出額及金屬鑛物産出額左表ノ如シ

0250

3-1709

一九〇六年至一九一六年ノ東京産石炭及金屬物産出額左ノ如シ

石炭鑛山 一五五萬四千噸
金屬鑛山 一五五萬噸



世辰送先

臺灣陸軍部長 臺灣海軍部長 各課長
海軍少令部長 外務次官 内務次官
法制局長 拓殖局長 小倉分使 東支將
陸軍少將 立花軍司令官 宇都宮軍司令官
翼軍總務總長 青島民政長
朝鮮政務總監 朝鮮警務局長
内閣書記官長 中川少司令官 陸軍少司令官
丹波才司令官 八角山公使館書記官